

# 水稻育苗箱専用長期持続型殺菌剤

## Dr.オリゼ®箱粒剤

プロベナゾール…………… 24.0%  
鈣物質微粉等…………… 76.0%

農林水産省登録 第19721号

毒性 普通物 有効年限 5年 包装 1kg × 12袋

## ●特長

1. 世界初の植物防御機構活性化剤(Plant Defence Activator)で、植物の病害抵抗性を誘導して高い効果を示す、ユニークな作用性の殺菌剤です。
2. 育苗箱当り50g施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。

## ●適用病害および使用方法

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	緑化期 ～移植当日	1回	育苗箱の苗の 上から均一に 散布する	2回以内 (移植時までの処理は 1回以内)
	穂枯れ (ごま葉枯病菌)		移植当日			

(平成28年7月6日現在の登録内容)

## ●効果・薬害等の注意

- 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としたのち、十分灌水する。
- 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさける。

- 軟弱徒長苗、むれ苗などでは葉害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用する。
- 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は葉害が生じやすいので、代かきはいねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意する。
- 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意する。
- 本田が砂質土壌、漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用しない(効果・葉害)。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさける(葉害)。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。